



寒暖差が激しいですね

# 三寒四温といひますが

これを書いているのは三月六日です。ここところ、四月上旬から中旬の陽気になったかと思えば、真冬のような寒さになったりと、気温の乱高下が激しいですね。おかげで体調管理も難しくなりがちです。

さて、調子が悪いのは人間だけではないようで、この淀姫通信を作成しているパソコンまでもが動作不良になり、手を尽くしましたがお亡くなりになりました。データのバックアップはとってあったので、新しいパソコンに環境を移行して、なんとか使えるようにしました。

しかし、環境を一から構築するのに時間がかかってしまい、前回の二月二十日発行予定だった淀姫通信は飛んでしまいました。

これからまた仕切り直しとなりますが、今後ともこの淀姫通信をご愛顧いただけ

るように頑張ってまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



平成二十八年三月六日

皇紀2676年  
(西暦2016年)  
第119号

発行：淀姫神社社務所  
〒859-4501  
松浦市志佐町浦免632  
TEL・FAX 0956-72-0653

# 季節の言葉あれこれ

さて、この号が皆さまのお手元に届く頃は、淀姫神社春の大祭「祈年祭（春祭り）」も済んでいます。その模様については次号に譲ることにいたしまして、今回もまた「季節の言葉あれこれ」を書かせていただきましたと思います。

## 【染井吉野】（そめいよしの）

お花見といえば桜。お花見の桜といえば、定番はこの「染井吉野」ですね。桜の品種は数あれど、いまや桜の代名詞となった感もあるこの品種。ご存じの方も多いらっしゃるでしょうが、染井吉野は比較的新しい品種だったります。

この染井吉野は、江戸時代頃から見られるようになった品種です。その成り立ちは諸説あるようですが、江戸時代の中頃から末頃にかけて、園芸用に作られたものという説が有力とされているようです。

つまり、いくつかの桜を掛け合わせて、人工的に生み出された桜ともいえます。

ちなみに、遺伝子解析の技術を使ってその起源を探る試みがなされているようですが、

まだまだ完全な解明はできていないようです。ただ、日本固有の種である「大島桜（オオシマザクラ）」と、「江戸彼岸（エドヒガン）」という種類の品種が掛け合わさったところまでは解明されています。

さて、この染井吉野が生み出される前の桜といえば、「山桜」でした。山桜は古来から愛でられていたようで、万葉の時代から春の代表的なものとして、盛んに和歌などの中に詠まれていたようです。

清少納言などは『枕草子』の中で、

「桜は、花びらの大きに、葉の色濃きが、枝細くて咲きたる」とい

う記述を残しており、山桜の優美さを褒め称えていたことが認められます。

このように古くから愛されてきたこの花は、散り際があまりにも儂く美しいことから、他の花よりも一層愛されて



淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。